

# 山行報告書

報告書作成

2012年8月10日

山名 [山域]	奥三河・清水谷沢登り下り山行	目的と方法	沢登り体験
登山期間	2012年7月1日	山行形態	日帰り沢登り
参加人数	4名		

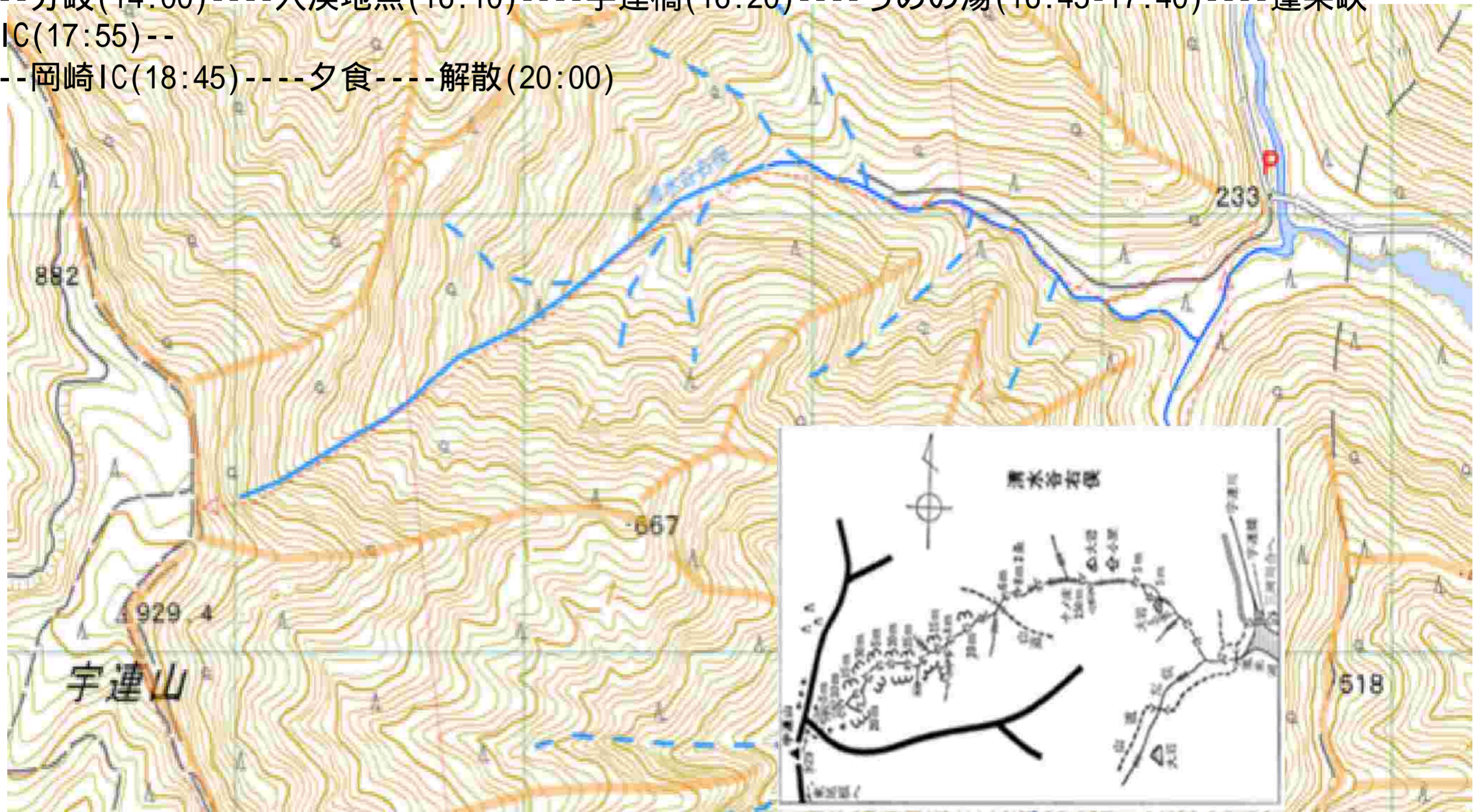
## 行動記録

集合地駐車場(6:00)==岡崎IC(6:15)==三ヶ日JCT==浜松いなさIC(6:45)==蓬莱峡IC==宇連橋(7:15-7:35)--

--入渓(7:50)----大岩(8:00)----大滝(11:35)----滝終了地点(11:45)----稜線(12:55)----宇連山(13:10-13:50)--

--分岐(14:00)----入渓地点(16:10)----宇連橋(16:20)----うめの湯(16:45-17:40)----蓬莱峡IC(17:55)--

--岡崎IC(18:45)----夕食----解散(20:00)



### \*日誌\*

宇連橋の先に車を2台程止められるスペースがある。10分程歩くと沢への踏跡があったのでそこから入渓する。水量はさほど多くないと思ったが、ちょうど入った場所が深くなっておりどぼんと沢に入った。胸の高さまで水に浸かる。あいまいな防水対策だったため、頭の中が真っ白になった。しかし前半は他に深い場所はなく、ほどなく二俣に分かれ、右俣に行く。水は澄んでいて綺麗だ。前半はナメ床が続く。広くとても気持ちが良い。特徴のある岩の模様だ。小滝が出てくるが傾斜もあまりなく直登する。ここは岩の表面が適度にゴツゴツしているのでも登りやすく、楽しい！大滝が現れる。もろい岩のため滝のすく横を高巻く。高巻くにしても足場が悪いので緊張した。ロープを出してもらい、大滝が続いた。やはり岩がぼろぼろと崩れたり、水しぶきのなかを直登することに自信が無く怖かったので、私は挑戦するも結局高巻いた。3人はそのまま直登されていた。この辺りまで来ると大きな岩が沢山出てくるのだが、濡れた服と体力消耗で思うように越えられないことが多くなり、上から引っ張り上げてもらったり、後ろから押してもらったりした。沢の終点に着く。そこからは1時間程度の藪こぎだ。当初のルートとは少し外れて作業用の林道に出たが、そこから宇連山の山頂は10分程だった。山頂で昼食をとる。天気は曇っていた。展望は望めなかった。下山は先ほど作業用の林道の地図が示された看板を見つけたので、予定時間が遅れていたこともあり、そこから下りることにした。がしかし、道といえるものではなく山の斜面をひたすら下る苦行となった。シダが生い茂った斜面なので足下がよく見えず緊張した。下る途中、すく脇を夕力が飛び立って一同かなりびびりした。見ると卵があり巣だったのだ。夕方に申し訳なく思い、延々と続く斜面を下った。最後は沢に出て登山道に合流した。

### \*感想\*

初めての沢登り。とても気持ちが良い楽しかった。前半天気が良く、日なたで休憩していると気持ちよかったが日が陰ると濡れた身体では寒い。沢靴での藪こぎは歩きにくく、大したことない藪だろうとは思いつつ私にはとても大変だった。大滝を高巻いた時、足場が悪くそれどころではなかったのを見たことのない生き物がちらほらいた。思い出し暗い気持ちになった。服装から装備などたくさん改善すべきことがあったが、何より先岩登りの技術が必要だと思った。